

障害者歯科学：630-4-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	*野本 たかと (障害者歯科学)

学修目標 (G I O) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数：1単位 ・学修目標 (G I O)：全ての国民がどのような状況にあっても可能な限り住み慣れた地域で生活できるような社会の推進や医療費削減などの社会的ニーズの高まりにより、学修者が将来歯科医療従事者として、障害児者に歯科医療を提供することは必須となる。障害児者の歯科医療は地域包括ケアシステムの中心的役割を担う機会もあることから、歯学系だけでなく、医学、行政、福祉、教育など他職種とも連携を取る必要があるため、学修者は幅広い分野にわたる知識や多様な問題を解決する能力を修得する。
担当教員	*野本 たかと、*地主 知世、*梅澤 幸司、*遠藤 眞美、*林 佐智代、*和井田 暢子、※高柳 篤史
教科書	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版 日本障害者歯科学会 編 医歯薬出版株式会社
参考図書	新版 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 向井美恵, 山田好秋, 井上誠, 弘中祥司 編 医歯薬出版株式会社
評価方法 (E V)	授業期間内に行う2回の平常試験 (2回合計で100%) を評価点とする 平常試験はそれぞれの授業担当者の担当時間数に比例した点数配分である。 平常試験に対する再試験は行わない。 レポートによって再評価を行うことがある。
学生へのメッセージ オフィスアワー	障害者歯科学は幅広い知識を必要とされるため、授業だけでは理解が難しい場合があります。下記オフィスアワーにいつでも教授室および研究室に来てください。 オフィスアワー：9時から19時

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/06 (月) 1時限 09:00~10:30	障害者における心理発達と行動特性	<p>【授業の一般目標】 障害者における行動特性を理解するために、その背景にある心理学的手法についての基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 心理発達について説明できる。 3. 知能検査、発達検査について説明できる。 4. 障害者の心理発達と障害受容の関係について説明できる。 5. 歯科医療に関わる障害者の心理特性と行動特性について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目： 正常な行動発達について理解し、表出される行動を評価する方法について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 2-16, 34-37, 40-44を熟読すること 準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 イ 小児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療 a 治療環境</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 7 人体の成長・発達・加齢変化 ア 小児の機能 a 運動・感覚機能 b 認知・言語機能 c 精神発達の評価法 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 イ 人体の発育 b 成長・発達 (形態的・生理的変化) の特徴 (身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。</p>	*地主 知世

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/06 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者における心理発達と行動特性	E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ⑤診療室における患者の心理と行動を説明できる。	*地主 知世
2026/04/13 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概念と基本理念	<p>【授業の一般目標】 ノーマライゼーションの理念に基づいた障害者歯科医療の意義を理解するために、社会的背景に即した「障害の概念および基本理念」を理解し、日本における障害児者の実態、社会保障およびノーマライゼーションについての基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 障害の概念とノーマライゼーションの概念について説明できる。 3. 国際障害分類、国際生活機能分類について説明できる。 4. 障害者基本法における障害者について説明できる。 5. 障害の認定と障害者に関する人口動態について説明できる 6. 障害者歯科の成り立ちと現状について説明できる。 7. 障害者歯科診療に用いるFour Handed Dentistryについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 歯科医療においてスペシャルニーズが存在することを知る。 スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科第2版 (医歯薬出版) P. 2-37 を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時のスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ア 患者・障害者のもつ心理社会的問題と背景 a 疾病・障害の概念・構造 (社会的関わり)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ア 患者・障害者のもつ心理社会的問題と背景 c ノーマライゼーションの理念 d 国際生活機能分類 (ICF) 歯科医学総論 総論 I 保健・医療と健康増進 1 健康の保持・増進と社会保障 ア 健康・疾病・障害の概念 d ノーマライゼーション</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 ①健康、障害と疾病の概念を説明できる。 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 ⑦社会環境 (ノーマライゼーション、バリアフリー、quality of life <QOL>)の考え方を説明できる。</p>	*野本 たかと
2026/04/20 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その1 発達障害	<p>【授業の一般目標】 発達障害についての知識を修得する。 それぞれの障害に見られる口腔の形態および機能の特徴と口腔疾患についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 法律でいう発達障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 3. 自閉スペクトラム症の特性と口腔との関連を説明できる。 4. ADHDの特性と歯科診療上の配慮すべき点を説明できる。 5. 限局性学習症/限局性学習障害の特性と歯科診療上配慮すべき点を説明できる。 6. 強度行動障害の特性と歯科診療上配慮すべき点を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 障害者基本法に定められた障害者とは何かを説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 23-25, 40-44, 48-57, 217-219を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p>	*梅澤 幸司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/20 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その1 発達障害	<p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 2 ライフステージ別にみた保健・福祉 カ 障害児・障害者の保健・福祉 c 障害の種類と支援</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 3 障害者への対応 エ 診察の基本 オ 歯科治療上留意すべき事項 歯科医学各論 各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 8 障害者の歯科治療 ア 基本的対応 a 一般的対応 ウ 口腔疾患の治療</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ③障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。</p>	*梅澤 幸司
2026/04/27 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その2 知的能力障害と先天性の異常・奇形	<p>【授業の一般目標】</p> <p>知的能力障害の概要と顎顔面領域に形態・機能異常を伴いやすい障害者（特に症候群）に対応するための専門的知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 知的能力障害の特性および口腔の特徴を述べられる。 3. 先天異常と先天奇形について説明できる。 4. 顎顔面領域における形態・機能異常と外表奇形について説明できる。 5. 障害者歯科医療の場で遭遇することの多い症候群について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>・準備学修項目： 口腔・顎・顔面の正常発達を説明できる。 2年次における組織・発生学の授業における顎顔面領域に関する項目ならびにスペシャルニーズデンティストリー第2版（医歯薬出版）P.40-47, 168-200を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>無し</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常・発育異常</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 a 先天異常・発育異常</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。</p>	*野本 たかと
2026/05/08 (金) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その3 身体障害	<p>【授業の一般目標】</p> <p>ライフステージと障害の発生についての知識を修得する。 身体障害についての基本的知識を修得する。 それぞれの障害に見られる口腔の形態および機能の特徴と口腔疾患についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p>	*遠藤 眞美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/08 (金) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その3身体障害	<p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. ライフステージと発生する障害との関係性について説明できる。 3. 身体の障害の種類を述べられる。 4. 発達期における肢体不自由の原因となる身体障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 5. 脳性麻痺の特性と口腔内の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 障害者基本法に定められた障害者とは何かを説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版（医歯薬出版）P. 58-71, 89-91, 93-105, 163-168を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り・講義中のアクションレポート</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論1 保健・医療と健康増進 2 ライフステージ別にみた保健・福祉 カ 障害児・障害者の保健・福祉 c 障害の種類と支援</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論V 診察 3 障害者への対応 オ 歯科治療上留意すべき事項 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 8 障害者の歯科治療 ア 基本的対応 a 一般的対応 ウ 口腔疾患の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	*遠藤 真美
2026/05/11 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その4感覚器障害および内部障害	<p>【授業の一般目標】 ライフステージと障害の発生についての知識を修得する。 感覚器障害および内部障害についての基本的知識を修得する。 それぞれの障害に見られる口腔の形態および機能の特徴と歯科治療時の注意点についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 身体の障害の種類を述べられる。 3. 感覚器障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 4. 発達期の障害者の合併症に多い先天性心疾患の概要と歯科治療上の配慮について説明できる。 5. 発達期の障害者の合併症に多いその他の内部障害の概要と歯科治療上の配慮について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 障害者基本法に定められた障害者とは何かを説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版（医歯薬出版）P. 58-71, 89-91, 93-105, 163-168を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論1 保健・医療と健康増進 2 ライフステージ別にみた保健・福祉 カ 障害児・障害者の保健・福祉 c 障害の種類と支援</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論</p>	*遠藤 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/11 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その4 感覚障害および内部障害	<p>総論V 診察 3 障害者への対応 オ 歯科治療上留意すべき事項 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 8 障害者の歯科治療 ア 基本的対応 a 一般的対応 ウ 口腔疾患の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	*遠藤 眞美
2026/05/18 (月) 1時限 09:00～10:30	障害の概要と口腔の特徴 その5 精神障害	<p>【授業の一般目標】 精神障害についての基本的な医学的・歯学的知識と歯科診療上の配慮についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 精神障害の種類を説明できる。 3. 精神障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 4. てんかんの口腔の特徴について説明できる。 5. てんかんの歯科治療時の注意点について説明できる。 6. 統合失調症の概要と口腔の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： ライフステージにおける障害の発生について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版(医歯薬出版) P.106-119, 120-126, 147-162を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り・講義中のアクションレポート</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 r 精神・心身医学的疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論I 保健・医療と健康増進 2 ライフステージ別にみた保健・福祉 カ 障害児・障害者の保健・福祉 c 障害の種類と支援 総論IV 主要症候 1 全身の症候 キ 心理、精神機能</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 E-5-3) 精神・心身医学的疾患 ①心身相関を説明できる。</p>	*和井田 暢子 *遠藤 眞美
2026/05/25 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験1・解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験1までに行われた授業内容を理解し、知識を修得できているか確認し自己評価が出来る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき享受した以下の内容について確認する 2. 障害の概念と障害者の置かれた社会環境について説明できる。 3. 障害者と社会福祉について説明できる。 4. 知的能力障害、発達障害、身体障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 5. 障害の原因となる先天性の異常および奇形について説明できる。 6. 重心/医療ケア/超重症児・準超重症児の概念および障害児者の歯科治療への導入を説明できる。 7. 歯科治療時における行動調整法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 平常試験1までの講義内容を理解出来る。 ・準備学修時間：270分 ・事後学習項目：平常試験問題 ・事後学習時間：15分</p>	*野本 たかと *梅澤 幸司 *遠藤 眞美 *地主 知世 *林 佐智代 *和井田 暢子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/25 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験1・解説 講義	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 その他 該当なし</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	<p>*野本 たかと *梅澤 幸司 *遠藤 眞美 *地主 知世 *林 佐智代 *和井田 暢子</p>
2026/06/01 (月) 1時限 09:00～10:30	歯科治療時における行動調整 その1	<p>【授業の一般目標】 障害者への適切な歯科医療提供の基本である行動調整法を理解するために、その基礎となる理論についての基本的知識ならびに実際の診療場面での方法についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 行動調整法の基礎となる理論の存在について説明できる。 3. 行動調整法の基礎となる理論とその心理学的手法について説明できる。 4. 薬物を用いない行動調整法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 障害と心理特性について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 208-244を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 8 障害者の歯科治療 ア 基本的対応 b 行動調整</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 診察 3 障害者への対応 ウ 行動調整 オ 歯科治療上留意すべき事項 総論VII 治療 1 治療の基礎 オ 障害者の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ②障害者の行動調整 (行動管理) と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 ③障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ⑧行動変容と行動療法を概説できる。</p>	<p>*地主 知世</p>
2026/06/08 (月) 1時限 09:00～10:30	歯科治療時における行動調整 その2	<p>【授業の一般目標】 障害者への適切な歯科医療提供の基本である行動調整法を理解するために、その基礎となる理論についての基本的知識ならびに実際の診療場面での方法についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 行動調整法の基礎となる理論の存在について説明できる。 3. 行動調整法の基礎となる理論とその心理学的手法について説明できる。 4. 薬物を用いない行動調整法について説明できる。 5. 薬物を用いた行動調整法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 障害と心理特性について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 208-244を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	<p>*地主 知世</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/08 (月) 1時限 09:00～10:30	歯科治療時における行動調整 その2	<p>無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 8 障害者の歯科治療 ア 基本的対応 b 行動調整</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 診察 3 障害者への対応 ウ 行動調整 オ 歯科治療上留意すべき事項 総論VII 治療 1 治療の基礎 オ 障害者の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ②障害者の行動調整 (行動管理) と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 ③障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ⑧行動変容と行動療法を概説できる。</p>	*地主 知世
2026/06/15 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者への健康支援 ー口腔管理ー	<p>【授業の一般目標】 口腔および全身疾患の発症リスクが高い障害者における口腔管理の重要性を理解するために、口腔疾患予防の方法と工夫についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔疾患と全身疾患の関連性について説明できる。 3. 障害者における口腔疾患予防の重要性について説明できる。 4. 障害者における口腔疾患予防のための具体的な手法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 口腔機能について説明できる。 口腔機能と全身機能の関係性について説明できる。 口腔のセルフケアを説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 245-276を熟読する。 ・準備学修時間30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有り・講義中のアクションレポート</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 エ 口腔健康管理 a 口腔衛生管理</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論I 保健・医療と健康増進 1 健康の保持・増進と社会保障 イ 口腔と全身の健康増進 b 健康教育・学習、保健指導、健康相談 総論V 診察 3 障害者への対応 カ 健康支援、患者管理 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 5 高齢者等に関連した予防と管理 ア 歯の喪失予防 a 口腔保健指導 8 障害者の歯科治療 エ 口腔保健指導</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理</p>	高柳 篤史 *和井田 暢子 *野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/15 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者への健康支援 ー口腔管理ー	④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ④障害者の口腔ケア及び口腔衛生指導を説明できる。	高柳 篤史 *和井田 暢子 *野本 たかと
2026/06/22 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食嚥下機能障害のリハビリテーション その1 摂食嚥下機能の正常発達と口腔機能発達不全症	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下障害の理解のために、正常な摂食嚥下機能の知識および発達期障害児者への対応について習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 食べることの意義を説明できる。 3. 哺乳動作を説明できる。 4. 摂食嚥下機能の発達とその獲得順序・段階を説明できる。 5. 摂食嚥下動作時の各器官の役割りを説明できる。 6. 口腔機能発達不全症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 心身機能の正常な成長・発達について説明できる。 正常な口腔機能について説明できる。 2年次解剖学、組織・発生学における顎顔面領域の授業内容 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 127-146を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 シ 口腔機能のリハビリテーション a 咀嚼機能、摂食嚥下機能、発話機能</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 f 摂食嚥下障害 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 7 人体の成長・発達・加齢変化 ウ 口腔・顎の機能の発達 a 摂食嚥下機能 総論Ⅶ 治療 6 リハビリテーション ア リハビリテーションの概念</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ⑤発達期の摂食嚥下障害の診察、評価、診断を説明できる。 ⑥発達期の摂食嚥下障害のリハビリテーションを説明できる。 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ③口腔機能低下の検査と予防法 (介護予防を含む) を説明できる。 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。</p>	*和井田 暢子 *林 佐智代
2026/06/29 (月) 1時限 09:00～10:30	摂食嚥下機能障害のリハビリテーション その2 発達期障害児者への対応	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下障害の理解のために、正常な摂食嚥下機能の知識および発達期障害児者への対応について習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 摂食嚥下障害をきたす障害や疾患を説明できる。 3. 摂食嚥下障害者への食環境指導および食内容指導を説明できる。 4. 摂食嚥下障害者への訓練法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 心身機能の正常な成長・発達について説明できる。 正常な口腔機能について説明できる。 2年次解剖学、組織・発生学における顎顔面領域の授業内容 スペシャルニーズデンティストリー第2版 (医歯薬出版) P. 127-146を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p>	*林 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/29 (月) 1時限 09:00~10:30	摂食嚥下機能障害のリハビリテーション その2 発達期障害児者への対応	202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 シ 口腔機能のリハビリテーション a 咀嚼機能、摂食嚥下機能、発話機能 【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 f 摂食嚥下障害 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 7 人体の成長・発達・加齢変化 ウ 口腔・顎の機能の発達 a 摂食嚥下機能 総論Ⅶ 治療 6 リハビリテーション ア リハビリテーションの概念 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ⑤発達期の摂食嚥下障害の診察、評価、診断を説明できる。 ⑥発達期の摂食嚥下障害のリハビリテーションを説明できる。 E-5-1) 高齢者の歯科治療 ③口腔機能低下の検査と予防法（介護予防を含む）を説明できる。 ⑨摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	*林 佐智代
2026/07/06 (月) 1時限 09:00~10:30	障害者の歯科治療の実際と医療安全	【授業の一般目標】 安全で質の高い歯科医療提供するために、具体的な歯科治療における配慮と治療計画、治療法についての知識を修得する。 誤飲、窒息、誤嚥性肺炎など生命に関わる医療事故の起こりやすい状況であることを認識し、その予防策と対応法についての知識を修得する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 障害者における口腔疾患に対する治療計画ならびに治療法について説明できる。 3. 障害児者の歯科治療の実際の症例から課題と解決方法を説明できる。 4. 障害者の歯科治療場面で発生しやすい医療事故について説明できる。 5. 呼吸器疾患、免疫異常、姿勢の異常など患者側の環境と医療事故の関係性について説明できる。 6. 医療事故の予防策と対応法について説明できる。 7. 障害者への歯科治療の提供と感染防御策の重要性の関係について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 健全者における歯科治療上の配慮について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版（医歯薬出版）P. 277-326を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 イ 小児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療 a 治療環境 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 3 障害者への対応 オ 歯科治療上留意すべき事項 5 高齢者への対応 ア 診察の基本 a 診察時の注意 歯科医学各論 各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 8 障害者の歯科治療 ア 基本的対応 a 一般的対応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-2) 障害者の歯科治療 ③障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-6 医療の質と安全管理 A-6-1) 安全性の確保	*林 佐智代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/06 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者の歯科治療 の実際と医療安全	①医療上の事故等の発生要因（ヒューマンエラー、システムエラー等）を説明できる。 ②医療上の事故等に対する防止策を説明できる。 ⑦歯科医療における事故の具体例を列挙できる。 B 社会と歯学 B-1 健康の概念 ②口腔と全身の健康との関連を説明できる。	*林 佐智代
2026/07/13 (月) 1時限 09:00～10:30	障害者のための地域 歯科医療システム	<p>【授業の一般目標】 地域包括ケアシステムにおける歯科医師としての重要性を理解するために、地域連携に必要な基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 地域医療の重要性について説明できる。 3. 介護保険サービス、社会福祉サービス、医療保険の関係性について説明できる。 4. 障害者歯科医療に携わる医療機関について説明できる。 5. 地域医療連携における歯科の役割について説明できる。 6. チーム診療について説明できる。 7. 訪問歯科診療について説明できる。 8. 周術期の患者に対する医療連携と歯科の役割について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目： 日本における医療制度について説明できる。 障害者の地域社会における共生について説明できる。 スペシャルニーズデンティストリー第2版（医歯薬出版）P.26-37を熟読する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学習項目：授業時に示したスライド ・事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ウ チーム医療 a チーム医療の意義（多職種連携、医科歯科連携、病診連携を含む）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済 f 地域包括ケアシステム ウ チーム医療 b 医療チームの構成員と役割 c チーム医療における歯科の役割（かかりつけ歯科医、在宅医療、歯科訪問診療） 歯科医学各論 各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 9 在宅、病院、施設における歯科診療 イ 多職種協働</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 ①保健・医療施策を説明できる。 ⑧地域における保健・医療・福祉・介護の連携（地域包括ケアシステム）を説明できる。 G 臨床実習 G-4 チーム医療・地域医療 ①地域医療・地域保健（在宅医療（訪問歯科診療を含む）、地域包括ケアシステム）を経験する。 ②病診連携、疾病連携を経験する。 ③多職種連携（歯科衛生士、歯科技工士、医師、薬剤師、看護師、その他の関連職種並びに介護職）によるチーム医療を経験する。</p>	*地主 知世
2026/08/17 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験2・解説 講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験1後の講義内容が習得されたかを自己評価をすることができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき享受した以下の内容について確認する。 2. 感覚器障害、精神障害、中途障害の概要と口腔の特徴について説明できる。 3. 障害者の口腔からの健康支援を説明できる。 4. 摂食嚥下障害の状態とリハビリテーションについて説明できる。 5. 障害者の具体的な歯科治療と医療安全について説明できる。 6. 障害者のための地域歯科医療システムについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学習項目：平常試験1以降の講義内容について理解できる。 ・準備学習時間：270分 ・事後学習項目：平常試験2問題 ・事後学習時間：15分</p>	*野本 たかと *遠藤 眞美 *梅澤 幸司 *林 佐智代 *地主 知世 *和井田 暢子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/08/17 (月) 1時限 09:00～10:30	平常試験2・解説 講義	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 その他 該当なし</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	<p>*野本 たかと *遠藤 真美 *梅澤 幸司 *林 佐智代 *地主 知世 *和井田 暢子</p>